

日本イラストレーター協会

会報

2006年

No.2

日本イラストレーター協会では、日本全国あるいは世界各地で活躍している会員の皆様にJIAの活動を様々な形でお知らせしています。今回はPDF形式の会報で、新年度の理事を紹介しましょう。



● 目次

● はじめに

● 理事挨拶 (五十音順)

● 青木瑠璃 (東京都)

● 石井幸雄 (神奈川県)

● 江崎善晴 (埼玉県)

● おじやらりか (東京都)

● 蟹江隆広 (東京都)

● 嘉村靖子 (新潟県)

● 佐藤比路志 (東京都)

● 竹村直貴 (秋田県)

● 藤本知子 (高知県)

● 渡辺新吉 (東京都)

● 理事長挨拶

● JIAの歩み

理事 青木瑠璃 (東京都)



あらためて自己紹介を書くとなると、何かからいいの迷うものですね。簡単に私のこれまでの活動を振り返ってみたいと思います。

絵をはじめたのはいつからですか？という質問はよく聞けるのですが、これに答えるのはけっこう難しく、「子供のころから描いていました」というのが本当のところなんです。

家にはおもちゃが少なかったのですが画用紙とクレヨン、マジックなどだけはたくさんありました。絵を描かせておくと静かが良いということが、本当のところのようです。

実際に初めて絵を売ったのは一九九五年(たぶん)札幌芸術の森の「アートマーケット」という、作家を支援する露店でした。月に二回日曜日に自分で車で行ってシートを広げて売るフリーマーケットのようなものでした。

それから、どこへでも呼ばれたイペントに出掛けて行って、即興で似顔絵を描いたりデパートの一部(廊下もありました)を借りて展示したりしました。

活動を続けて思うことは、沢山の人の目に触れることが、まず大切なのではないかということです。知りあいではない方ばかりですので当然批判もされますがときどき気に入って下さった方から、すぐ褒められて調子にのったり、似顔絵



を渡したときの相手の方の笑顔をみたりそういった事が今も活動の原動力になっています。

ルドン、草間弥生さんの初期の作品が好きで、パステルの作品をつくるようになります。年、まだまだ奥が深くてももしろいです。

その他年数回、ふくろうをテーマにした展示会で丸善他に出品しています。絵だけでなくこちらではいろいろな造形作品を製作しています。

話は変わりますが、三年前まで札幌に住んでいたころは植林の活動に参加していました。

先日もデザインの仕事(これも仕事のひとつです)の関係で取材に行ってきた。エコロジーというひとくくりの言葉はあまり好きではありませんが、世の中は消費し破壊する方向から、つくり育てる方向へ変わってゆくだろうという実感をもちました。

私の勝手な持論ですが、絵を描く(作品をつくる)ということと、料理を作る、植物を育てるということは、お互いにとても近いのではないかと思います。

美術が社会から切り離された特別なものではなく、世の中の一部として存在できるようなこれからの活動していきたいです。



葦原いるん(東京都)

昨年より引き続き理事を拝命しております、葦原いるんです。

実際には「いる」以上のことを何もしてないのですが、JIA展などで顔を合わせる機会にはなるべく参加するよう心がけております。

また、東京にいられた方をお迎えする交流会などが突発的に開かれることがあります。その際にもお邪魔したりしてあります。

主な分野はデジタル画材による幻想系コミックイラスト(造語)です。

比較的限られた分野な気がしないでもないですが、協会ではこの分野の方はまださほど多くないようですし、同傾向の方にも、またもちろんその他分野の方にもどうぞよろしくお願いいたします。

理事制度といいますが、この形もだんだん定着し、各理事の方々から様々な企画が出され、また協会組織の充実などがなされてきました。

イラストレーター同士のつながりは、同じプロジェクト・同じ仕事で一緒になることでもないとなかなか得難いものですが、インターネットを主な媒体として日本全国、全世界につながりを広げていくこの場、会員の方々にはどうぞ存分に活用くださって、ますます広く、ますます密に、仕事にもプライベートにも

プラスになるものが増える有意義な組織になればと思っています。

今年度はJIA展やインターナショナル・イラストレーション・コンペティションの他に、デザインフェスタへの参加や各種ソーシャルネットサービスを利用した連携面の強化など、今まで以上に会員同士の情報交換や相互交流、外部に向けてのアピールなどが進んでおります。

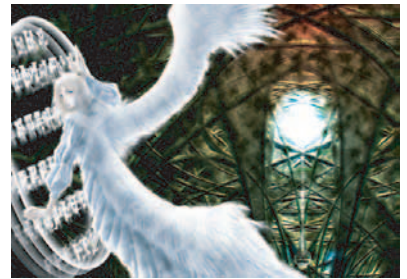
今までのイベントやメーリングリスト以上に、気軽に交流を深めることができるようになりました。

と言いつつ、個人的にはまだソーシャルネットでの交流に参加しきれておりませんが。

イラストレーションに関すること以外にも、雑談など広い範囲に渡って交流できそうです。

ソーシャルネットでは特に、各自のイラストや写真などをつけて視覚的にも分かりやすい話ができますので、具体的な助言や意見交換もスムーズかつ便利にできるのではないかと思います。

ますます活用度の上がったJIAを、みなさんとともに盛り上げて行きましょう！(その割にコッソリ生息)



理事 石井幸雄(神奈川県)

協会の皆様こんにちは。新しい会員の方も増えてきて今後ますます協会の知名度があがっていくことと思います。

今回は秋葉原でマックを販売してのお店と周辺のお店について(川崎通信一号)

最初に出てくるのが、ソフマップ二号店マック専門店です。秋葉原の中央にあり、隣が本店でこの二店舗を囲み、安売りする店が沢山あります。

安くても、東京では一流の有名店ばかり、品質も保証付きです。商品の値段が信じられないくらい安く、新製品なのに半額ぐらい、旧品は70%オフのものの中にはあります。

旧マックをお使いの方達、そろそろ、EHDが壊れ始めていませんか？

DEタイプのEHDなら80GB~160GBで四千~六千円程、250GBで八千~一万円程で買えます。

メモリーも安く、マルチDVDの内蔵型(1つ前の製品(DVD/R・RW16XCD/RX36)は四千円程です。

もちろんパイオニアや松下、NEC、東芝等一流メーカーです。ウインドウズ系のお店なので純正ではありませんが、中身は全く同じものです。

上記以外にもPCを使ったUSBやIEEE1394LANなどのカードが安く沢山売っています。

骨董クラスのマックをお使いの方はぜひソフマップ二号店へ四階はノート系、三階は、デスクトップ系の中古やジャンク品の安価な製品が揃っています。

CDのアップグレード・カードなら国内で一番安いといわれる秋葉館。

古くなったノートなどのEHDを保存用にするケースが七八〇~一九八〇円程で売っています。

マック起動用電池は八四〇円程です。起動しなくなったマックの電池交換を試してみると動く場合もあるかもしれません。

これらは秋葉館で販売しています、HPでもアクセスしてみてください。

まだまだ書きたいことがあります、紙面いっぱいになりますのでまたの次にします。詳しくはメール下さい。

また、私もフォトショップやイラストレーターで新しい使い方を練習している毎日です。

今後は個人的に上記ソフトの使い方や質問にお答えできるように窓口を協会のHP内か他の方法を検討しながら会員の方の技術向上に向けて努力していきたいと思っています。





理事 江崎善晴 (埼玉県)

JIA理事に選任して頂きました、江崎善晴です。

第五回インターナショナル・イラストレーション・コンペティションにて佳作入選を頂いた折りに入会しました。二〇〇四年八月入会です。

一九六一年生まれ、45歳。牡牛座、血液型AB型、趣味は登山、スキー、濁流釣りなどアウトドアスポーツ、飲酒、最近あまり読んでいないけど、読書。

そしてもちろん絵を描く事(仕事以外にスケッチが好き)ポイスカウト活動をやっていた関係で地元(埼玉県ふじみ野市)の教育委員会との関わりがあり、毎夏小学五、六年生を三十名ほどを引き連れてキャンプに行く手伝いをします。

今年も行ってきました。そこで登山の引率やスケッチの講師みたいな事をやりますが、それも相当楽しんでます。

イラストレーターは二十歳頃から始めたのですが、途中十年(一)ほどサラリーマン時代を経ており、気持ちとしては未だ新人でございます。

仕事を始めた頃はまだ若く、自分の選んだ仕事は狩猟採取生活の様なモノで、仲間みないな関係は(仕事では)ひとつも無く、またそういうものだと思っていました。



しかし、その後軽いノイローゼを経てサラリーマン時期を迎えた時に、「人間一人でなんとかしようなんて、無理だしそもそも奢っていたな。」とつくづく感じました。

実際私は奢った人でした。

得手不得手とは全く関係ない仕事を覚えるのは、結構大変でしたが、他の人たちと連携して仕事を出来るという資質はイラストレーターとしても不可欠な部分で、そのような事を覚える意味では私にとって大事な時期だったと思っています。

私はJIAに入会して、なにが良かったかという点、他のイラストレーターと繋がれるということとです。

一人でやるという潔さは善しとして人と繋がりを持つことも大切だし、対話が出来るということは不可欠な資質でもあります。

私はこの会の中でなにが出来るのか、未だに良く判っていませんが、人と人の繋がりを助けて行けたら素晴らしいなと思っています。

そして何より、私自身がそのことを楽しみにしています。



理事 おじやらか (東京都)

協会に期待すること。

イラストレーターという職業は、画業と同じように孤独な作業です。一人で最初から最後までやり通せる良さと背中合わせです。

画家になることを決意し、脱サラ。一万枚のドローイングを目標に、コツコツと絵を描いています。画業であっても、イラストレーションであっても、目指すべき場所は同じ場所にあると私は考えています優れた作品には共通点があるので。

三年というものは早いもので、自信や作品に対する欲も少しはついてきて、もっと仕事を増やしたいと考え、日本イラストレーター協会の入会審査を受けてみることにしました驚くべきことに、無事に入会審査にとおりました、JIAメンバーとなることができました。

創作活動を現金化するという仕事は、サラリーマンだった私には、驚くばかりの仕事の現場であり、一人きりの仕事場では不安なこと、疑問に思うこと、この先どう考え何をし進んでゆけばよいのかを考えなければなりません。

同業の方との情報の交換ができる交流会や協会展は、同じ気持ちでいる作家の方と出会える、有意義な場所となっています。

もっとぶっちゃけて実態をお話しすると、「天才みないな絵を描く人ばかり」



に混じり、一緒に酒を飲み、ワイワイと話せる場。ということになり、参加するたびに、アタシは何て運が良いのだろうという気持ちでイッパイになります。

フリーで活動していると、労働者としては本当に弱い立場にいるわけですが、そういう中でも、気軽に悩みを相談したり、仕事の取り方、技術的な疑問を解決するヒミツのテクを伝授して頂く、知名度の上げ方などの、濃い情報を交換したりできることは素晴らしい時間であります。

交流会や協会展をとおしてメンバーの作品に触れるという時間も大切です。

ひとりよがりではなく、よりよい作品を作るためには、優れた作品に沢山触れることが不可欠なのだと思えました。

創作活動をするものにとって、最も大切なのは、その創作姿勢が作品を通じて伝わってくることです。作品を見れば、その作家さんが何を考えて絵を描いているのか解る。

まあ、そういうことなのです。

諸先輩方の作家魂に触れ、私も頑張らねばという気持ちになれる場所だと思えます。

若い方もヨイ作品を沢山描き、公募展や、協会審査にどんどんとチャレンジしてみてください。



理事 蟹江隆広 (東京都)

日本イラストレーター協会の理事長をしております。

一九九九年にこの協会を設立してから、七年経ちました。

会員数も順調に伸び、二〇〇六年九月現在一七〇名をこえるまでになりました。

これまで、支えて下さった会員の皆さんに感謝します。

協会として今までに行ってきた活動で主なものとして、ウェブでのイラストレーター紹介、イラストの仕事の斡旋、イラストの公募展、イラストの年度賞、メーリングリストによる情報配信(ＪＩＡ通信)、会員同士の交流会、日本イラストレーター協会展、ＤＶ協賛展、会報発行、FreeEとmixにコミュニティを設置などを実現してきました。

今後予定されているものとしては、イラスト年鑑の電子本などを企画しています。

理事も現在十一名に増えていますので今後ますますいろんな企画が出て、実行されることを望みます。

私が今後実行したいことは、交流会の回数を増やし、内容もバラエティーに富んだ交流会にすることです。



現在二、三ヶ月に一回程度の交流会を月一回程度に増やしたいと考えています。

交流会に参加したくてもスケジュールが合わないという方もいらっしゃるのので回数を増やすことで参加しやすくする狙いがあります。

それから、今までの交流会は関東中心で、ほとんど飲み会ばかりだったので、中にはアルコールが苦手という方もいらっしゃると思いますので、飲み会以外にも楽しい企画をだしていきたいと考えています。

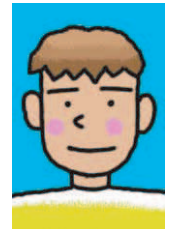
例えば、「東京デイズニーマーシー」「パーベキュー」「テニス」「ポーリング」「ユニバーサルスタジオ・ジャパン」「スキー」「旅行」など・・・

これらを実現する為には、ある程度の参加人数が必要です。

今後会員数も増え、遠方からでも参加したくなるような企画であれば、ある程度の参加人数も期待できるかと思えます。

皆さんの為の協会ですから皆で、協力しながら楽しく意義のある協会にしていきたいと思っております。

これからもよろしくお願い致します。



理事 嘉村靖子 (新潟県)

ＪＩＡの皆様こんにちは、二〇〇六年度の理事を拝命した嘉村と申します。

私は、子ども向けイラスト、絵本の制作、奥様向けの生活関連の原稿記事などを中心に仕事をしています。

ＪＩＡでは年間をとおり、いろいろな催しが行われています。

不定期な交流会はもちろん、さまざまな年代や分野のイラストレーターからなりたっていますので、その腕を披露する公募展、ＪＩＡ展、年二度のＪＩＡからの賞等の他、日本全国、海外に散らばる会員の方々がどうやってコミュニケーションをとったら参加しやすいかと、定期的なメール配信(ＪＩＡ通信)や様々な形のネット場で場を設けたり・・・といった試みをしています。

便利なものは取り入れ、うまくいかなければ変更をするなど、柔軟性もあるのもＪＩＡの特徴です。

今年のＪＩＡで理事として何をしたいかということですが、私は昨年に引き続き、この会報を発行します。

ＪＩＡの歩みや活動予定のお知らせ、ＪＩＡではどのような人達がいるのかを新会員、現役会員の皆さんへ少しでもわかりやすく伝えることができるように会報の形でまとめ、次の方への引き継ぎがしやすいようにしたいと思います。



たくさんの方々の方々の協力があったからこそ、ＪＩＡが成り立ちますので、さまざまな催し物はもちろん、理事の活動にも多くの人達に携わって欲しいと思います。

皆さん仕事や勉強をしながらなので時間的な余裕を持つのが、むずかしかったり、自分で何か企画しようにも何ができるのか、どうしたらいいのか、迷ったりすると思います。

何にアドバイスが必要なのかを考えてしまうと、ついつい尻込みをしてしまう時もあるでしょう。

けれど、そのまま、まとまりのない疑問でも聞いてみると、会長さんをはじめ他の理事の人達あるいは経験豊富な会員の方々がそれぞれのわかる範囲でアドバイスをくれます。

ＪＩＡ会員のより多くの人達が、少しずつでも出来る範囲で参加できたら、また、ＪＩＡでも参加しやすい受け皿づくりが整うと、よりいっそうＪＩＡが大きく発展していくかと思えます。

自分でできることは、ささやかなことですが少しでもお役に立てば・・・と思います。

今年度、よろしくお願い致します。



理事 佐藤比路志(東京都)

先日「日本雑誌広告協会」主催のセミナーに参加した際のお話を書きます。

デザインの仕事では、デジタル入稿環境は避けて通れないものになっていきますが、一般の印刷物と雑誌原稿(新聞などのマス媒体を含む)の考え方は多少差があっても、雑誌広告をデザインする上で必要なパソコン+アプリケーションソフトの組み合わせはMacOSX+IllustratorCS2が近々半数を占めるようになってくると考えられます。

二〇〇八年頃にはデジタル校了となり出版社が校正刷りを確認のためにデザイナーや広告主に提出しなくなる状況を考えられます。

現在でもデジタル校了で原稿を入稿している企業も多く、色にうるさい大手化粧品会社等もこの方式をとっている状態で製作の段階で作った色などをそのまま雑誌に反映するシステムが確立された事になります。

今後デザイナーは雑誌広告を作る際に四つの選択肢から選ぶこととなります。

「デジタル校了を前提とした」MacOS9+AI10のJr、MacOSX+AI CS2のJr、フルヒータ入稿(出版社校正あり)のMacOS9+AI10のFr、MacOSX+AI CS2のFrに。

イラストレーターもこの四つの状況のどれで雑誌原稿が製作されているのかわかっているのとトラブルは少ないと思います。

二〇〇八年以降は送稿システムも変更されPDFの原稿入稿になってくると考えられます。



一般の印刷物では、まだEPSでないとかメダという印刷会社も多いのですがそろそろ状況は変わってきています。

また、デジタル環境で原稿を作る際カラーマネージメントという問題も大切で

現在はepsでないとうまくないのですが今後AIのColorへの変更でも使えるパソコンに変わるかもしれませんね。

プロセスカラーインクも進化していてCMYKのカレイドなどは四色印刷でAdobe RGBにだいたい近づいた色(緑や紫の色幅が広がりました)を再現できるようになってきています。

イラストレーターの作業はアナログな部分が多く、その方がおもしろいことが多いのですがイラストレーションの前提である大量複製をする部分はかなりデジタル化が進んできています。

これらを上手くマツチさせていくことがこれからのイラストレーションを考えると大切な事になってくると思います。

今後のイラストの世界を考える上でなるべくこのような状況とマッチ出来る協会というものをひとつの考え方として持ちたいと思いますので、理事としてなるべく他の機関、協会、企業に日本イラストレーター協会の存在を知っていただき相互な活動が出来るようにしたいと考えています。

*AI=Adobe Illustratorの略。

*AI CS2=Adobe Illustrator CS2の略。

*AI CS=Adobe Illustrator CSの略。

*Jr、Frとは、(雑誌広告基準カラー)の略、Fr、Jrとはフルデータの略になります。

JMPにより全てのフローで統一された色基準が運営されることとなります。



理事 竹村育貴(秋田県)

この度二〇〇六年度理事を担当させていただきます竹村育貴(きよき)と申します。

JIAへの入会は三年ほど前で理事は昨年に引き続き二回目の拝命をいただきました。

今年度も頑張りたいと思いますので皆様どうぞよろしくお願ひ致します。

現在、私は秋田県を拠点に屋外広告に従事しております。

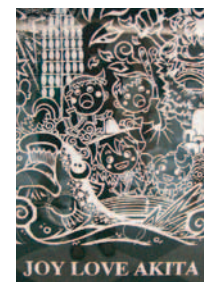
普段は看板の仕事がメインなのですが半分はイラスト・グラフィック・ウェブの仕事しながら個人の製作活動をしております。

イラストは、ポップなイラストを中心に描いています。

私がイラストレーターとして活動を始めてまだ四年程なのですが、この道に進んだのはJIAが主催します「インターナショナル・イラストレーション・コンペティション」等のコンペや地方の放送局さんとの仕事がかっかけでした。

大学では芸術系に在学していたので、絵を描くこと自体はずっと続けてきていたのですが、趣味としてではなく絵を描くようになっていたのはこの時期だったと覚えています。

当時、イラストレーターとしてのいろいろな知識や経験も無く、地方在住という



こともあり先輩イラストレーターに学ぼうと考えたのが入会のきっかけでした。(ちょうどコンペで入選したこともありましたが)

そんな繋がりに始まり始めた協会との関係ですが、今後協会で取り組んでいきたいと思っていることは、協会イベントへの参加はもちろんですが、地方の(私は東北ですが)会員を増やしていきたいということですね。

ここ数年で地元での活動場所も増えてきました。イベントのオーガナイザーや講師も行っております。

協会の良さを伝えるにはいい条件も揃ってきたように感じます。そのためには自分自身が協会の良さをよく知ることが大切なので、私個人として協会の繋がりはもっと取っていきたいと思います。

最近では、ソーシャルネットサービスでの一部会員の交流も加わりましたので使いやすさ慣れれば距離的な問題を考えずにタイムラグなく会員同士の交流も図れるなど感じています。

これだけ多くの会員が参加している中で、協会の進展や考え方も様々かと思いますが、皆さんイラストが好きで、地方も中央も関係なく縁あってJIAで一緒に活動しているわけなので、その関係がより充実していくために私も努めていきたいと思ひます。



理事 藤本知子(高知県)

JIAの皆様、残暑お見舞い申し上げます。

JIA理事に選任して頂きました藤本知子です。どうかよろしくお願ひします。

今年の夏は、仕事の多くが七月末締め切りでしたので仕事の山を越え、ゆっくり夏を過ごすことが出来ました。

また自分の方向性を試す機会にも恵まれました。こんな時間は必要ですね。

中学校の美術講師を辞め、フリーになって6年目になりました。

高知では、まだ個展は開いたことも無く、無名です。

こんな田舎者の私ですが、年々仕事が増えてきました。初めは同人誌の挿絵でしたが、仕事で一緒にした方や、民話作家の方に気に入って頂き、次々と輪が広がりにつつ仕事が増えてきました。

内容は民話挿絵が多いので、画材はアクリル絵の具から水彩や岩彩に変化しており、自分の変革を求められてきました。これが私にとって、凄い冒険でした。努力も要りました。

やはり、仕事あつてのイラストレーターです。どうしても結果を出さないとダメです。

テーマは田舎の山里での話や、古い藁葺き農家の中だったり、色も渋く抑え



た建物、着物も縞柄で継ぎあてをしています。

こんな絵の世界の中で個性を出すには大胆な線とスピードのある線ではないかと思ひ、できるだけスピードをだし筆を運んでいます。

まだまだばかし方や人物の背後を、筆で不自然にならない塗り方を学んでいなくてはなりません。勉強、勉強です。

またいつかは個展を開きたいと思うのですが、なかなか作品が揃いません。

次々と過去の作品が嫌になるからです。もっと上手くなればいいのに・・・の連続です。

こんな私ですが、いつかは納得のいく作品が生まれること信じたいと思ひます。

せめて自分の絵が87点以上を取れるようになりたいものです。

そんな20作が制作できたら個展を開きたいと思ひています。

現在は九月初めから始まる戦争本のペイン画の下絵を描き始めています。

イラストボードに洋画技法をとりいれ、ジェッソなどを塗りながら描き始めます。これで三冊目の本になります。戦争の悲惨さを表現できたら嬉しいと思ひます。

JIAの皆様、益々の御活躍を、期待しています。



理事 渡辺新吉(東京都)

JIA会員・渡辺と申します。

まだお会いしたことのない方が多いと思ひますので、簡単な自己紹介を・・・。

現在は東京都小平市に住んでおりますが、静岡市出身。東海道新幹線に乗った時、車窓から富士山が一番大きく見えるあたりです。

高校で大学で絵画を習ひ、その頃は普通にキャンバスに油絵を描いておりました。

二十代前半に、沖縄の人と知り合ったのが縁でやがて年に一二度通うようになり、かの地の風土や歴史芸術工芸に触れました。沖縄の伝統的染色「紅型(びんがた)」に出会ったのもその頃。

そのまま「沖縄に渡り、首里の工房に弟子入りして・・・」という方がそれはそれで話としては盛り上がるんですけど、うくん・・・なんと東京の自分のアパートから歩いて行ける距離に「麻生工房」という紅型を基調に着物や帯を製作している染色工房があつたんです。その工房で「型染(かたぞめ)」などの基本を学びました。

私が今チャレンジしているのは「筒描(つつがき)」という技法です。筒(つつ)という三角錐の器具から直接生地に防染糊をしほり出す技法で、京友禅が代表的ですけど自由度が高く漁船の大漁旗とか幟・暖簾・布団地など巨大なもの染めるのに適した伝統的手法だったようです。・・・そう、クリスマススケキなんかにクリームをデコレーションしたりチョコ



コレイトで文字を書いたりする器具と形も使い方もそっくりです。筒で引いた防染糊の線のことを糸目(いと)と言ひますが、熟練した職人さんの糸目は細くて精巧ですが、私のは水彩画などと差別化し染色の技法を強調する為、ワザと太きこちなく糸目を引いています。京都の友禅作家さんが見たら「へたくそ！」と言われるかもしれません。

さて、染色の話が長くなりましたのでこの辺で話題を変えましょう・・・。

一方で私は、印刷関係のデザインの仕事もしています。

今年の春頃JIAを通じて表紙のイラストを描いて下さる方を公募していただきました。こういう時に様々な「タツチ」や「ティスト」の作家さんが多く在籍している団体は本当に頼りになります。ウェブで、一瞬にして遠くにお住まいの作家さんと繋がる事ができるのも魅力です。

現在協会ホームページの「ギャラリー」のコーナーで各作家さんの作品が見られますが、もっと検索性を高めるにはどうしたら良いのでしょうか？他にも「JIA年鑑」などの懸案もありますね。交流会などで、ひとつひとつ詰めていきましよう。

今後ともよろしくお願ひします。

● 理事長挨拶

蟹江隆広

私は一九八三年にイラストレーターになり、一九九〇年にイラストレーション制作会社(有)クレアを設立しました。その後イラストレーションのコーディネートなども始め(株)クレアに組織変更しました。日本でも数少ないイラストレーションのエージェントとしては老舗の一つです。

この会社を通して数百名のイラストレーターと知り合い、毎年数百件の仕事に携わってきました。この仕事の中で理不尽な目にも随分会ってきました。

欧米ではレップと呼ばれるイラストレーションのエージェントを通して仕事を発注するのが普通です。エージェントがマネジメント等を全て行う為、イラストレーターの地位が高く保たれています。その点日本は遅れていて、今でこそいくつかエージェントができていますが、イラストレーターへの地位向上に余り役に立っているとは言えません。

私は日本のイラストレーターの地位を上げたいと思い、一九九九年に日本イラストレーター協会を設立しました。二〇〇四年によくやく会員数が一〇〇人を超え、私は(株)クレアを後進に任せ、日本イラストレーター協会の仕事を中心にやっていくことにしました。現在は会員数一七〇余りの団体になりました。目標としては一万人規模の協会を目指しています。ある程度規模が大きくなると、大きなイベントも開催できませんし、業界の中での影響力も小さいからです。

今後は理事の皆さんにどんどん新しいアイデアを出して頂き、会員の皆さんにもっと協力して頂いて、幅広い意義のある活動を行えるようにしたいと考えています。

今後よろしくお願い致します。

● 日本イラストレーター協会の歩み

一九九九年 四月 設立

四月 ホームページ開設

二〇〇一年 一月 JIA通信を開始

二〇〇一年 六月 第一回インターナショナル・イラストレーション・コンペティション開催

十二月 年度賞の制定

二〇〇三年 六月 韓国出版美術家協会と交流会を開催

二〇〇四年 四月 JIAロゴを制作

二〇〇四年 九月 Stop DV Charity Exhibition 2004開催

二〇〇四年 十月 会員数が百名を突破

二〇〇五年 三月 事務局を新宿区に移転

四月 認定証と会員証の発行開始

五月 第一回日本イラストレーター協会展開催

二〇〇五年十二月 オーストリアの出版社と交流会

二〇〇六年 一月 第一回会報発行

二〇〇六年 二月 中国の出版社と交流会

二〇〇六年 四月 新理事の就任

二〇〇六年 四月 代々木公園で花見

二〇〇六年 五月 第二回日本イラストレーター協会展開催

二〇〇六年 六月 第七回インターナショナル・イラストレーション・コンペティション開催

二〇〇六年 八月 渋谷で交流会開催

二〇〇六年 九月 第二回会報発行

● 二〇〇六年今後の予定

九月 交流会

十月 交流会

十一月 第一回日本イラストレーター協会年鑑を電子本で制作

十二月 交流会

十二月 二〇〇六年、年度賞の作品募集